

管内の「確かな学力向上策」の紹介

今年度も、各学校においては、児童生徒の「確かな学力」を育む視点からPDCAサイクルを取り入れた「確かな学力向上策」を作成し、授業改善に取り組んでいただいています。


昨年度の学校訪問指導の中で、「他校の取組を知りたい。」「他校の取組も参考にしたい。」という声を多数いただきました。そこで今回は、小学校においては、「**具体的・効果的な評価を行っている学校**」の例、中学校においては、「**教科ごとに具体的な取組を講じている学校**」の例を紹介しします。各学校の児童生徒の実態を踏まえてより具体的な取組を講じ、適切な評価を行うことが次の授業改善につながる重要なポイントになります。参考にしてください。

なお、詳細は「**島根県教育用ポータルサイト**」で公開しています。学校の参照者用ユーザーIDとパスワードでログインし、「検索」ページで「キャビネット」にチェックを付け、『**確かな学力向上策**』の事例で検索してください。

【紹介している学校】

- ・出雲市立上津小学校
- ・出雲市立灘分小学校
- ・雲南市立飯石小学校
- ・奥出雲町立馬木小学校
- ・飯南町立頓原小学校
- ・出雲市立第二中学校
- ・出雲市立斐川東中学校
- ・雲南市立木次中学校

平成24年度「しまね数リンピック」の申込締切り迫る!!



期 日 平成24年10月28日(日)

時 間 小学生の部 9:30~11:00(90分)
中学生の部 9:30~11:30(120分)

対 象 小学生の部…小学5、6年生
中学生の部…中学1、2、3年生

会 場 出雲会場
出雲合同庁舎(出雲市大津町1139)
雲南会場
雲南合同庁舎(雲南市木次町里方531-1)
奥出雲会場
カルチャープラザ仁多(奥出雲町三成436)

参加申込 各学校で参加者をとりまとめ、
9月12日(水)までに、各市町教育委員会へ申し込む。

表彰等 ・最優秀賞 各部門の最高得点の児童生徒
・優秀賞・優良賞 参加者の概ね上位1/3以上の児童生徒
(最高得点の児童生徒から順に、金・銀・銅メダルを副賞として授与する。)
・参加者全員に、参加賞(缶バッジ、クリアファイル)を授与する。

☆授業で、「しまね数リンピック」の問題を活用してみませんか。
「しまね数リンピック」の問題・解答用紙・解答例を「島根県教育用ポータルサイト」で公開しています。学校の参照者用ユーザーIDとパスワードでログインし、「検索」ページで「キャビネット」にチェックを付け、「しまね数リンピック」で検索してください。

<問い合わせ先 : 出雲教育事務所 算数・数学担当>

*「管内の教育」は島根県教育庁 出雲教育事務所ウェブサイトにてカラーで掲載されています。

所報 第43号

管内の教育

出雲教育事務所
平成24年 8月

主な内容

- 1 調整監 学校訪問を終えて
- 2 社会教育におけるふるまい向上の取組
- 3 管内の「確かな学力向上策」の紹介
- 4 しまね数リンピック

学校訪問を終えて

調整監 原 悟司

所報(8月)の発行にあわせての掲載で、時期がずれてしまいましたが、お許しください。

今年度の教育事務所長の学校訪問は、5月9日の掛合小学校から開始し、6月19日の若松分校の訪問をもって終了いたしました。新緑が野山に萌える季節からさわやかな初夏の季節へと季節が移ろう中、予定どおりの日程で訪問できました。

私にとっては、昨年に引き続き2度目の学校訪問となりますが、校長先生、教頭先生、職員の皆さんの心からの出迎え(雨の日に、校長先生、教頭先生が、傘を差しながらの出迎えと誘導をいただいたこともありました。ありがとうございました。)と子どもたちの元気なあいさつ、今年度も、本当に「気持ちよく、さわやかに」訪問させていただきました。また、校長先生の高い教育理念と教育にかける熱い思いを伺い、大変勉強にもなりました。ありがとうございました。

さて、この訪問では、校内体制と人事異動、人権・同和教育の推進、教職員の育成・指導について、各校の現状やお考え等を中心に伺いました。

まず、校内体制については、どの学校も校長先生が子どもたちの姿をしっかり捉えた上で経営構想を立て、教職員を組織しておられました。教職員を組織として動かすこと、一人一人の意欲を引き出し高めること、指導力・授業力を向上させることなど学校力と教職員の資質向上に重点が置かれていたと感じています。また、「地域」とのかかわりの中での教育、地域と一体となった教育が強く意識されていることも感じました。地域へ子どもたちの頑張っている姿を見せたい、子どもたちにボランティアなどを通して地域貢献をさせたいなど、学校から地域への積極的な働き掛けをしておられる学校が多くありました。特に中学校において、この視点が強く出ていたと思います。

人事異動については、教職員一人一人について、今年度末以降の希望、人事異動ルールの細則解消状況等について校長先生より伺いました。人事異動方針細則は、「自分たちのルール」であるとの認識のもと、自身のキャリアアップを図る手段の一つとしても、細則の遵守をお願いしたいと思います。

次に、人権・同和教育の推進については、各校とも、各市町の方針や目標に基づいて、自校の実情を踏まえ、経営構想に位置づけて推進しておられました。子どもたちの「言葉遣い」が気になる(荒い、呼び捨てなど)ので、正しい言葉遣いを通して相手を尊重する心などを育てたいというお話を何校かで伺いました。このように、子どもたちの日々の生活の中での人権・同和教育推進上の課題を見逃さずに取り組んでいくことが大切であると考えます。

最後に、教職員の指導・育成について、校長先生、教頭先生には、普段から教職員一人一人をしっかり見ていただいていると感じました。そして、教頭先生には、教職員が心をつなげて教育にあたるよう、風通しの良い、何でも話し合える、認め合える職員室づくりを心掛けていただけていました。OJT(職場研修)の視点を大切にしている、一日に一回は声をかけるようにしている、同僚性を大切にしている、自分から「あいさつ」するよう心掛けている、情報の共有を図っている、報・連・相を徹底しているなど、具体的な形で職員の育成・指導につなげていただけています。引き続き、教職員の心と体の健康にも配慮していただき、一人一人の力が十分発揮できますようよろしくお願いいたします。

なお、主幹教諭配置校については、主幹教諭にも同席いただき、短時間ではありましたが、お話を伺うことができました。不登校対応、生徒指導、特別支援教育、教務など主とする職務内容は学校によって様々ですが、校長先生、教頭先生と連携を図りながら、意欲的に仕事に取り組んでいただけていました。管理職と教職員のパイプ役としても期待しているところです。

最後になりましたが、このたびの学校訪問において、校長先生、教頭先生には、ご多用中にもかかわらず、人事異動・配置計画並びに学校経営等について懇切丁寧にご説明いただき誠にありがとうございました。紙面を借りて、お礼申し上げます。

(今年度、写真撮影、礼状の送付は行わないこととしましたので、ご了承願います。)

社会教育におけるふるまい向上の取組

ふるまい向上推進事業は、本年度で3年目を迎えます。管内において、ふるまい向上プロジェクト推進事業を実施する公民館、コミュニティセンター、交流センターは、平成22年度が9館、23年度が11館、24年度が20館と、年々増加しており、地域ぐるみのふるまい向上の取組が展開されています。

また、地域における子育て支援・家庭教育支援のための「親学プログラム」は、PTA研修をはじめとして、就学時健診や一日入学、公民館等における家庭教育学級などで広く実施されています。

そこで、管内の社会教育主事派遣市町における「ふるまい向上」の取組を紹介します。

公民館ふるまい向上プロジェクト

ふるまい向上講演会（木次地区自主組織）（志々公民館）



6月12日（火）に「ふるまい向上講演会」が木次小学校で開催されました。講師は茨城大学准教授の長谷川幸介氏。「子どもを支える3つの力と地域の教育力」をテーマにユーモアたっぷりの講演会でした。長谷川先生が木次に来られるのは、2年連続となります。昨年度の木次地区自主組織での講演会後「ぜひ、PTAの皆さんにも長谷川先生の講演を聞いてほしい」という意見が多く出ました。地域住民対象の講演会には親世代の出席が少ないという課題がある中で、「それならば、学校でやったら？」という長谷川先生の一言から、今年の講演会が実現しました。

講演会当日は保護者、地域住民、学校の教職員など総勢100名近い参加がありました。講演の内容も素晴らしかったのですが、木次地区の4つの自主組織と学校、PTAが協力して県民運動である「ふるまい向上運動」の研修会を開催したことに大きな価値があると感じました。

同日、志々公民館でも、「他人への心づかい」をテーマに長谷川幸介氏の講演会が開催されました。派遣社会教育主事が連携し、雲南市と飯南町が共同で講師を招聘したものです。志々公民館での長谷川先生の講演は2回目で、心待ちにしていた人も多く、たくさん参加がありました。

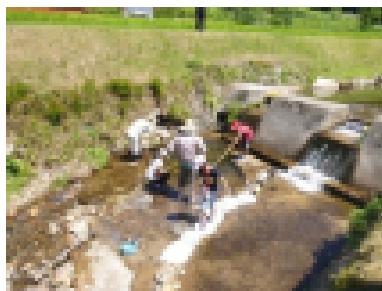
「人口（実数）が少なくても、活動人口（人と人のつながり）が強い志々地区には、お互いを支えるきめ細かな縁の網がある」という言葉に参加者一同励まされました。そして、「ふるまい向上」の実践と世代を超えた交流・相互理解の促進について地区全体の気運が高まる場となったように思います。

ちちんぷいぷい忍者だぞ！！（阿井公民館）

阿井公民館では、幼稚園・保育所・小学校と連携し、「ちちんぷいぷい忍者だぞ！！」を実施しました。「見る修行」に「聞く修行」、「大人がつくる手つなぎの輪からくぐり抜ける修行」、「忍者が投げた手裏剣をよける修行」など、次々に繰り出される修行内容に子どもたちは真剣に対応しました。みんなと話し合っって行動内容を決め、みんなで協力し合っって表現していく活動は、今の子どもたちにはとっっても大切な経験です。子どもたちの発想を大切にしたい感性を高めるプログラムです。



子どもチャレンジ教室（横田公民館）



横田公民館では、横田の四季折々の自然の中で体験活動を通して子どもたちの「自立する力」と「他の人と共に生きる力」を培うことをねらいとして子どもチャレンジ教室を開催しています。本年度も20名の子どもたちが6月に釣り及び、エゴマ・さつま芋の苗植え、8月には、オオサンショウウオの保護体験活動を行いました。夜は、夕食づくり（竹ご飯）、蚊帳をつつての宿泊体験を行いました。オオサンショウウオの大きさに子どもたちは、あぜんとしていました。

親学プログラム

「親学」研修会（三刀屋幼稚園）



三刀屋幼稚園の保護者約40名で「親学」研修会を実施しました。20名ずつ2つのグループに分かれて「子どもに示したい大人のふるまい」について話し合いました。参加した保護者の皆さんは和やかな雰囲気の中で子どもや自分自身の生活を振り返り、今後どのように子どもに接していくのかを真剣な表情で考えておられました。

雲南市では現在12名の親学ファシリテーターがおり、今年度も新たに20名程度養成していく予定です。経験者と初心者が2人組をつくって「親学」を実践し、経験の場を確保することで『実践できるファシリテーター』を増やしていきたいと考えています。

親として子どもを大切に、毎日
笑顔を見せたいようにしたい。

子どものことで悩んでいる
のは私だけではないと知っ
て「ホッ」としました。

心を大切に、子
どもと一緒に成長し
たいと感じました。

「親学」研修会（赤名保育所）

飯南町には、現在、5名の親学ファシリテーターがおり、その内訳も、公民館主事・保健師・保育士・教員・社会教育主事とさまざま、それぞれの持ち味を生かして活動しています。今年度は、中学校のPTA懇談会や保育所の公開日に親学プログラムを取り入れた研修会を実施しています。

このうち、赤名保育所では、親子活動と「親学プログラム」を組み合わせた研修会を実施しました。前半は、親子で一緒に歌遊びやジェスチャーゲームなどを行い、後半は、保護者だけでワークショップを行いました。親子で一緒に遊ぶ中で、「子どもたちの様子を知る」、「ルールやマナーを身につける」、「親の姿から子どもたちが学ぶ」、「子どもの姿から親が学ぶ」など、さまざまな学びの機会があることについて話し合いました。



「親学プログラム」とは・・・

鳥根県立東部・西部社会教育研修センターで開発した、地域における子育て支援・家庭教育支援に活用できる学習プログラムです。

参加型学習の手法を用いて、参加者自身が他者との交流を通して、親としての役割や子どもとのかかわりについて気づいていくことをねらいとしています。

「親学プログラム」の実施に関するご相談・お問い合わせは、各市町教育委員会、または、東部社会教育研修センター（TEL0853-67-9060）まで。

平成24年度「公民館ふるまい向上プロジェクト」選定公民館等一覧（出雲教育事務所管内）

- | | |
|-------------|---|
| 出雲市 | 四絡コミュニティセンター、高浜コミュニティセンター、川跡コミュニティセンター、
鳶巣コミュニティセンター、稗原コミュニティセンター、乙立コミュニティセンター、
平田コミュニティセンター、国富コミュニティセンター、久多美コミュニティセンター、
東コミュニティセンター、伊野コミュニティセンター、須佐コミュニティセンター（須佐・窪
田コミュニティセンター合同事業）、荒木コミュニティセンター |
| 雲南市 | 八日市交流センター（木次地区4館合同事業）、中野交流センター |
| 奥出雲町 | 阿井公民館、横田公民館、八川公民館 |
| 飯南町 | 志々公民館、来島公民館 |